

WEEKLY SIGNAL

平成27年8月7日(金) 1286号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	8/10(月)	8/11(火)	8/12(水)	8/13(木)	8/14(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 900	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 31,300	+ 3,000	△ 7,000	△ 8,000	+ 72,000
資金需給	不 30,400	余 3,000	不 7,000	不 9,000	余 71,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3・6M)		源泉税揚げ 交付税特会借入・償還	国債発行(30年)	年金定時払い 交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,600 CP等買入 △ 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,400 ETF買入 + 100	CP等買入 + 3,500			
(日本)	金融経済月報(8月) 貸出・預金動向(7月) 企業倒産(7月)	工作機械受注(7月)	日銀金融政策決定会合 議事録(7月14、15日分) 企業物価指数(7月) 日銀営業毎旬報告 (8月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	機械受注(6月)	
(海外)	米 アトランタ連銀総裁講演	米 卸売在庫・売上高(6月)	米 MBA住宅ローン申請指数	米 小売売上高(7月) 米 新規失業保険申請件数 欧 ECB議事要旨	米 PPI(7月) 米 鉱工業生産指数(7月) 米 シガン大学消費者マインド 指数 欧 ユーロ圏4-6月GDP 欧 ユーロ圏CPI(7月、改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

＜インターバンク＞

当座預金残高は月初、前月末対比3.5兆円程度減少の226.5兆円台から始まり、国庫短期証券・国債買入等により下支えされながらも、税揚げ・10年債発行等の揚げ要因から6日には221.6兆円台まで落ち込み、その後223兆円台で越週した。無担保コールON物は週初、主に0.07%前半で取引されていたが、税揚げ日(4日)以降0.07%台半ば～後半の出合いが中心となった。同金利の加重平均は0.074～0.078%のレンジで推移し、試し取りが観測された日もあった。日銀は7日の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を8対1の賛成多数で決定し、景気判断を「緩やかな回復を続けている」に据え置いた。同日に発表された金融政策決定会合等の日程(2015年9月～2016年12月)によると同会合は2016年1月以降、FOMCに前後して開催される予定である。来週の材料としては、国内は7月14・15日開催の金融政策決定会合議事録(12日)、海外は米小売売上高(7月)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.090
TDB 3M	△0.010 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

＜CP＞

今週の入札発行額は約5,400億円で、期落ち額約5,700億円(金融機関・ABCP除く)と同程度であった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%台後半～0.100%台後半で推移した。現先レートの中心は、0.060%～0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約5,000億円程度となっている。多くの企業が夏季休暇に入り、発行は閑散となる見込み。

＜TDB＞

6日に国庫短期証券3M第550回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0040%(前回債△0.0040%)、平均落札レートは△0.0044%(前回債△0.0052%)と前回債から利回りにほとんど変化はなかった。セカンダリーは3Mで△0.005%近辺の出合い、6Mは△0.07%近辺の地合い、1Yは目立った出合いはなかった。来週13日に3Mの入札が行われる予定である。

＜レポ＞

足許GCは資金調達意欲が強いこともあり、0.07%近辺の出合から始まり、10年債発行日である6日受渡しでは、0.08%～0.09%近辺まで上昇した。また、TDB3MとTDB6Mの発行日である10日受渡しでは、S/N、T/Nともに0.095%近辺までレートは更に上昇した。週末にかけても、依然、資金調達意欲は強く0.09%を割れることなく越週した。SCは10年339回債は4日の入札に向けてO/Nビッドが目立ったが、リオープン後はビッドは限定的であった。10年336・337回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。5年債は114・120・124回債、10年債は323・328回債、30年47回債、40年8回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。